

社会科学部創設 50 周年記念号発刊に寄せて

社会科学総合学術院長 早 田 宰

本号は社会科学部創設 50 周年記念号にあたります。社会科学部は、1966 年に創設され、2016 年で 50 周年を迎えました。その間、1994 年に大学院社会科学研究所を設置、2009 年に昼間学部へ移行しました。2012 年に英語学位プログラム現代日本学プログラムを設置、2016 年に付置研究所・先端社会科学研究所を設置しました。2019 年に英語学位プログラムを再編しソーシャルイノベーションプログラムを設置しました。ガバナンスは、2021 年から大学院社会科学研究所長と先端社会科学研究所長を学術院長から分離独立させました。

これらにより、社会科学総合学術院は、学部、大学院、付置研究所の 3 つの機関から構成される大きな組織へと発展してきました。

学部創設以来の「社会に開かれた学部」という特色は変わることなく、現在、学際・臨床・国際、社会イノベーターの育成という理念に進化してきたといえます。一方、学術をめぐる環境変化により教員の論文投稿も外部専門雑誌への投稿の割合が増え、大学紀要のあり方や役割も変化してきました。本学術院には複数の学術雑誌があることから、本誌社会科学総合研究は、しばらく発刊を休止しておりましたが、この度、合本にて発刊を再開することにいたしました。

学部創設頃から教鞭をとり学部を支えてこられた団塊世代前後の教員がこの 10 年で退職され、新しい教員スタッフを迎えるようになっていきます。一方、人生 100 年時代を迎え、教職を退いた後も研究や執筆活動は活発に継続される教員も増えていきます。これら社会の趨勢を鑑みて、従来から行ってきた退職教員の古希記念号と冠しての発行は爾後行わないことにいたしました。その代わりに今後は先端社会科学の研究機関として新しい問いやテーマについて多様な視点から学術院の新たな研究の息吹を感じる研究を掲載していきたいと思っております。今後も本学術院の特色を生

かした学術誌としての発展を旨としてゆきます。

引き続きのご理解ご支援を賜れば幸いです。